

平成 27 年度 特定非営利活動に係る事業計画書

事業実施の方針

里山保全部門

管理場所グループ

- ・根戸城址を中心とする里山、田畑、水辺とその環境は今まさに貴重な存在になっている。この環境を活用、保全し後世につなげていくことを目的とする。道路清掃から始まり、根戸城址、ミカン山、ハス田の管理、さらに水稲、そばの栽培に力を入れる。
- ・遊休地を使つての景観植物の栽培など他グループとの連携をもって年間を通して活動を行う。今年度はトラスト活動の力が試される年になる。

個別活動グループ

- ・里山農教室部会は、有機生態系農業を学び研究し実践する場として開講する。また、受講生のなかから、有機生態系農業の母胎たる里山環境の保全活動の担い手を育成することを目指し、カリキュラムの中に保全活動の基礎を組み込む。
昨年からはスタートして好評だった 4 チーム制を継続し、管理する圃場をチーム毎に割り振ることでそれぞれの特色を出し合いスキルアップを目指す。同時に作付け作物を厳選し、無理なく充実した講座となるように工夫する。
継続して行っている冬水田圃における水稲栽培、ソバ栽培については、質の向上と収量の向上とを目指す。また脱穀や選別作業では足踏み式脱穀機や唐箕などの昔の農機具を使うことで現在のコンバインの基本を理解する。
- ・特別コースにおいては、年間 10 回の会合を開き、遠藤理事長のもと、一歩踏み込んだ野菜の栽培を実践する。6 月には笠間市の「あしたを拓く有機農園」を訪問する。
- ・ハーブ部会は今年も農教室開講日に作業を行なう。圃場を、ハーブソルト、リース、ハーブティー、ハーブ寄せ植えなどの用途に分割して管理するなど、新機軸で取り組む。
- ・竹教室部会は初心者グループが 2 年目を迎える。2 年を 1 クルーとして行うので、今年度末には新たな部会員を募集する。
- ・養蜂部会は根戸城址で多くの巣箱を維持・管理するとともに、部会員がそれぞれの自宅等で日本ミツバチを飼育できるように援助する。
- ・野菜ソムリエ部会は、さらに上級の資格を取得することを目指すとともに、手賀沼トラスト内での食の文化の形成に努める。

遊休農地活用部門

遊休農地対応グループ

- ・船戸圃場および三角田圃で景観作物を栽培して、農地を保全すると共に手賀沼周辺の景観と環境を守り、あわせて公開イベントを開催して市民に農地保全の大切さを感じてもらいながら楽しんでもらう活動を行う。
- ・船戸圃場では 5 月にひまわりを播種して 7 月に公開イベントを開催、その後 8 月に種を取る。また 10 月に菜の花を播種して翌年 4 月に公開イベントを開催する。
- ・三角田圃では 6 月にコスモス、10 月には菜の花を播種し、市民に楽しんでもらう。
- ・同景観作物栽培は我孫子市の「手賀沼沿い農地活用補助金制度」の申請を行い実施する。

新規就農者支援グループ

- ・新規就農希望者が現れた場合は、トラストで研修を行ない、市と協力して農業者として自立できるよう援助する。

事務局部門

事務局グループ

- ・各事業部門が存分に活動できるようバックアップする。
- ・根戸新田地区の遊休農地の保全にむけて、手賀沼トラストが主体となって取り組む活動をサポートするとともに、手賀沼ファームなど他団体との連携を強め保全活動のハブとなるべく努力する。
- ・地域住民・地域諸団体との連携を強め、手賀沼トラストの活動をいっそう理解してもらい、農産物の購入・イベントへの参加などを呼びかける。
- ・トラスト正会員、協力会員、メルマガ会員の募集を積極的におこなう。
- ・さまざまな団体からの助成金の獲得にチャレンジする。
- ・安全管理、リスク管理に努める。ヒヤリハット事例を収集し、事故防止の具体策を策定するとともに、「救急対応の仕方」についても看護師の会員から指導を受ける。
- ・機械管理部会の新設にともない、農業機械類の一元的管理をおこない、適切な機械の購入、適切な維持管理に努める。

交流グループ

- ・会員相互並びに一般市民との交流の場として、早苗饗（さなぶり）、案山子祭り、そば祭り、餅つき大会などを実施する。
- ・昨年整備された根戸城址の舞台を使い、落語会やコンサートなどを行う。
- ・会員同士、あるいは他団体、行政、事業者と自然環境や農について学び、情報の共有化を図る。特に柏市市民活動フェスタへの参加や、顧問契約を結ぶ小松崎茨城大学農学部教授の講座等を開催する。